

ぴっころ

～子育て支援センターには楽しいことがいっぱい～



※揖斐川子育て支援センターは、子育て中のお父さん、お母さん、妊婦さん、おじいさん、おばあさんなど、どなたでもきていただける場所です。気軽にお出かけください。

- ◆通信ぴっころを中旬に発行しています。図書館・公民館・保健センター・役場・振興事務所などに置いてあります。
- ◆ホームページ 揖斐川町 <https://www.town.ibigawa.lg.jp>
揖斐幼稚園 <http://www.ibi-youchien.ed.jp>

揖斐川子育て支援センター

揖斐川町上南方193 TEL23-1136
開館日 月曜日～金曜日・第3土曜日
9:00～16:00

◎揖斐幼稚園の開放日
6月16日(水)
直接幼稚園へお申し込みください。
☎22-6008(当日可)

【6月の活動予定】 行事の申し込みは、前月第3水曜日より実施日前日まで受付けています。(電話予約不可)

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3 おさんぼ会 北方地区 城山	4 リフレッシュ体操	5
6	7 育児相談	8	9 出前保育 養基保育園	10	11 りんご交流	12
13	14 育児相談 英語で遊ぼう	15 さくらんぼ交流	16 いちご交流	17	18	19 開館日
20	21 育児相談 ひよこ交流	22	23	24	25 お話ルーム・誕生会	26
27	28 育児相談	29	30	子育て支援センターは 広い戸外でも遊べます。		

・行事等中止になる場合もありますので、お気軽にお問い合わせください。
※年齢別交流・出前保育…地域散策、悪天候の場合は制作等で楽しみましょう。

子育て支援センターは、子どもに関する(0～18歳未満)あらゆる相談窓口です。
一人で悩んでいないで気軽にご相談ください。

相続

での
心配ごとはございませんか?

財産評価
相続税試算
生前対策

相続税申告
遺産分割
もめない
だろうか…

相続税
かかる
かしら…

お気軽にご相談ください!

ご相談特典!! 当事務所にご相談いただいた方には…

特典① 相続手続ガイドブック 特典② 初回相談(要予約)
プレゼント! 無料!(30分程度)

有
料
広
告
欄

税理士法人 いび会計センター TEL 0585-22-5660

揖斐川町三輪87-1(前島) info@ibikaikei.co.jp / http://ibikaikei.co.jp 担当: 国枝・横山



揖斐川町は、住民の皆さんの子育てを応援しています。 ～子育て支援センターの紹介～

★ 教えてドクター

子どもは、昼夜問わず発熱したり怪我をしたりと、病院に行くことが多々ありますが、緊急時に親ができること、病院を受診するほどではないが心配な時の対処方法など、皆さんの心配事にお医者様が答えてくださいます。

“心配になったらすぐに病院へ”もよいのですが、子どもの様子を見て“今 子どもに必要なことは何か？親がしてやれることは何か？”を考えることも親の大事な役割です。

講師 小児科医師
後藤加寿美先生
(揖斐厚生病院 前小児科部長)

※日程等については、毎月発行のピッコロで確認してください。



子育てちゃんねる

子どもがベッドに入っているときは、ベッドの柵を上げましょう。寝返りだけでなく、体をずらし移動することで転落する場合があります。ベッドに入ったら、柵を上げる習慣をつけ、ベッド転落防止に努めましょう。

また、ベッドの下の収納扉に挟まれる事故も起きています。子どもから目を離さないことが大切です。



いきいき園キッズ！

『あかちゃんブロッコリー』

『ができとる！』

やまと・きたがた幼児園

やまと・きたがた幼児園では、子ども達と一緒に季節や旬を感じ、食べ物への興味・関心が育つような菜園活動に取り組んでいます。年長児が中心となり、世話をしながら収穫できる日を心待ちにしていた矢先、カラスに苗を抜かれてしまうという事件が起きました。

「こら！カラス！」とカラスに向かって怒ったり、抜かれてしまった苗を悲しそうに見つめる子ども達。「どうしたらカラスから苗を守るだろう？」「順番に畑に立って見張ったら？」「音の鳴る物を置いて驚かせよう」などと考えを伝え合ったり、「おじいちゃんに聞いたらわかるかもしれないで、聞いてくるね」と家庭で聞いた話を友達に伝えながら問題解決を図ろうとする姿に、野菜を栽培する活動自体が子ども達には大変大きな学びの機会になっていたのを感じました。

冬には雪ですっぽり覆われてしまった畑を見て「大丈夫かな？」と心配する声も聞かれました。そして春・・・「うわーあかちゃんブロッコリーができとるよ」ブロッコリーが実をつけ始めると毎日が驚きと発見で、数を数えたり、大きさの変化を感じながら収穫を楽しみに世話をする姿が見られました。

長い時間をかけ苦労して育てた野菜であるため、子ども達の収穫の喜びも大きく、採れたてのブロッコリーを大切に抱きかかえていました。

これからも食物に感謝し食べることに楽しめるような食育活動を進めていきたいと思っています。

